

第9回「グリーン物流パートナーシップ会議」の開催結果について

公益社団法人日本ロジスティクスシステム協会、社団法人日本物流団体連合会、経済産業省及び国土交通省は、社団法人日本経済団体連合会の協力のもと、12月10日(金)に科学技術館サイエンスホールにおいて「第9回グリーン物流パートナーシップ会議」を開催いたしました。

第9回会議では、物流分野における地球温暖化対策に顕著な功績があった取組に対する優良事業者表彰と、物流サービスと消費者ニーズの両立をテーマとした基調講演とパネルディスカッションを行いました。

■日時・場所 平成22年12月10日(金) 13:30～16:00 科学技術館サイエンスホール

■参加人数 320名

■プログラム

1. 挨拶
2. 優良事業者表彰
3. 基調講演 「エコ・エコノミーの時代 ～消費者が求める物流～」
村田 佳壽子 環境ジャーナリスト・フリーアナウンサー
4. パネルディスカッション 「消費者と変える物流 ～更なる環境負荷低減に向けて～」

パネリスト：

村田 佳壽子 環境ジャーナリスト・フリーアナウンサー
橘 良治 イオングローバルSCM株式会社 取締役 営業統括部長
藤口 英治 ヤマト運輸株式会社 CSR推進部部长
森 久美子 東京都市大学 環境情報学部 学生

コーディネーター：

北條 英 公益社団法人 日本ロジスティクスシステム協会 ロジスティクス環境推進センター 副センター長

■会議概要

○杉山世話人挨拶

優良事業者表彰の応募枠の拡大、今年度立ち上げた「モーダルシフト等推進官民協議会」の進捗状況と併せて、今回のテーマである「消費者と物流」について、サプライチェーン全体において、荷主と物流事業者に加えて一般消費者の理解と協力の重要性について述べた。

○馬淵国土交通大臣挨拶

荷主と物流事業者に対して、コスト削減を求められている中でのモーダルシフト等の自主的な地球温暖化対策への取組に対する感謝の言葉とともに、物流分野の施策の充実等の取組支援に当たっての経済成長の重要性と経済成長を促すための新成長戦略の実行について述べた。



○大畠経済産業大臣挨拶（代読：深野弘行商務流通審議官）

物流分野を含む運輸部門は、我が国全体のエネルギー消費量、温室効果ガス排出量ともに約2割を占めており、エネルギー基本計画で定める方針にのっとり、環境と経済の両立を実現していく鍵であること、また経済産業省として、国土交通省と連携して、地球温暖化対策と我が国事業者の競争力強化につながる事業を全力で応援してゆくことを述べた。



○優良事業者表彰

国土交通大臣表彰 越野運送株式会社、株式会社ヤギ



（受賞理由）

ミルクランやモーダルシフトによる輸送効率の大幅な改善や天然ガス自動車の導入により、環境保全に関する活動に積極的に取り組んだ。

経済産業大臣表彰 シャープ株式会社、トナミ運輸株式会社



（受賞理由）

CO₂排出量の削減を目的として、携帯電話の配送において鉄道へのモーダルシフトおよび2段ラック採用による二酸化炭素削減の取組を通じてグリーン物流の更なる普及拡大に向けた物流システムを構築した。

経済産業省商務流通審議官表彰 パナソニック株式会社、パナソニックロジスティクス株式会社、株式会社タカラトミー、株式会社タカラトミーロジスティクス、株式会社エコトラック



（受賞理由）

CO₂排出量の削減を目的として、異業種企業が共同して都市間および物流拠点間輸送における大型天然ガストラックの開発、導入を行いグリーン物流の更なる普及拡大に向けた物流システムを構築した。

国土交通省技術総括審議官表彰 株式会社日立物流、日立アプライアンス株式会社



（受賞理由）

20ft、40ft海上コンテナ共用シャーシ導入を核に様々な創意工夫を凝らして、中距離での鉄道モーダルシフトを拡充させ、環境負荷の小さい物流体系の構築に多大な貢献をした。

○基調講演 村田氏：

企業活動にとって環境問題が不可欠なものとなってきている現状において、環境破壊の現実と将来の予測やモノづくりから価値づくりへの商品開発、消費者が輸送手段を選べるようなサービスの提言等について講演を行った。



○パネルディスカッション

(パネルディスカッションの概要)

地球規模でのCO2排出量の削減が求められている現在、荷主や物流事業者の取組に加えて、消費者の方々の物流及びグリーン物流に対する理解・協力が一段と重要になって来ている。環境対策と物流サービスレベルとのバランスを取るため、消費者と企業はパートナーシップを結べるのか？ パネルディスカッションで共に考え、意見を交換した。消費者と企業が物流分野の更なる環境負荷低減に向けたパートナーを組むことができる環境づくりに向けた一歩となった。

村田氏： 物流業はマイナスのイメージを抱かれがちである。物流活動は消費者に見えないところで行われている。物流分野の環境負荷低減のためには、消費者も物流を知る必要がある。今後の、消費者の潜在的ニーズ＝環境にあった物流サービスの提供に期待している。

橘氏： カーボンフットプリントの取組を行い、環境対策に取り組むことはもちろん、ムダを省いて経済的に良いもの、また安心・安全をお客様に提供できるよう努力している。消費者の皆様店頭での意識調査を行っており、一層お客様のニーズに合わせた取組をして行きたいと考えている。

藤口氏： 消費者ニーズに合わせたサービスの提供が、物流を変革させて来た。時間指定、宅配ではなく個人に合わせてお届けする「個配」など、ニーズに応えながら、当社の3原則、「使わない、使うならエコ、使い方」で、企業として環境問題に貢献している。

森氏： 物流は生活に密着しているにもかかわらず、その存在を身近に感じることはない。消費者は荷物を受け取る側としての責任を果たさなければならないと感じる。物流は重要なインフラなので、私達もより物流を知る必要があるし、物流事業者からは、私達が学ぶ環境も含めて、もっとPR、発信していくことが必要ではないか。



○配布資料

資料1 (講演者、パネリスト プロフィール一覧)

資料2 (村田氏講演資料)

資料3 (北條氏パネル資料)

資料4 (橘氏パネル資料)

資料5 (藤口氏パネル資料)

グリーン物流事例集

グリーン物流パートナーシップ会議のその他の情報については、下記のHPでもご覧いただけます。

<http://www.greenpartnership.jp/>

